



春闘の足を引っ張ったユニオン指導部！ JR総連とJR連合との差は歴然！

業界紙『ACCESS』676～677号に、2023春闘についての、JR連合政所事務局長（JR東海ユニオン出身）とJR総連熊谷書記長のインタビュー記事が掲載されました。これを読むと、その差は歴然です。

JR総連熊谷書記長	JR連合政所事務局長
JR東海労は、「基準内賃金を7200円引き上げる」との会社回答に、「まやかしだ！」と強く抗議しました。これには地域間格差を埋める調整手当が含まれ、全社員でならした数字だからです。ベアは1000円に過ぎません。そもそもの額の小ささ自体が驚きですが、さすがに第1組合のJR東海ユニオンの中でも、この会社発表の仕方には疑義を唱えていると聞こえてきます。	経営体力が弱り切っている時に、ブームに乗って1万円とか目を見張るほどのベアを実現したとしても、それによって余計に体力が弱ったり、翌年以降のベアが途絶えたりするくらいなら、我々は「持続的な賃上げ」を求めて対処します。 …略…JR東海は（ベア）1000円でしたけれど、この10年で累計1万円を超えています。比べるのなら、目の前に現れた数字の多寡ではなく、継続的に取り組まれていることなのかも含めて正しく比較してほしいものです。

以上のように、JR総連熊谷書記長は、JR東海の回答の低額とまやかしを批判しています。一方JR連合政所事務局長は、1,000円の評価を一切せずに、会社の体力を口実に累計でごまかしています。累計を言うならば、ベア要求は1,000で良かったのではありませんか。会社の経営体力が弱っているなら、リニア建設はできるのでしょうか。組合目線ではなく、会社目線です。

JR東海ユニオン組合員の皆さん、組合員・社員の利益（賃金・労働条件）は、会社ベッタリの役員によってどんどん切り下げられていくのです。今こそ、労働組合とは何かを考えてみてはどうでしょうか。

御用組合の本領発揮！
会社目線で組合員置き去り！